様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月　 ３ 日現在

機関番号：１５３０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｈ０３５０６

研究課題名（和文）海浜部在地墓制にみるヤマト政権と在地勢力の相互関係の学際的研究

研究課題名（英文）A study on the politoical relation between Yamato Goverment and villages of fishermen

研究代表者
清家　章（SEIKE, AKIRA）

岡山大学・社会文化科学研究科・教授

研究者番号：４０３０３９９５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　9,900,000円

研究成果の概要（和文）：田辺市磯間岩陰遺跡の発掘調査資料を中心に海浜部在地墓制の研究を進めた。まず磯間岩陰遺跡出土資料を考古学・人類学（形質・DNA・同位体）・動物学という学際的研究チームによって整理と分析を行った。この研究報告書は研究期間内には刊行できなかったものの、多くの原稿は完成し2020年度中には発行予定である。また海浜部在地墓制のいくつかは王権の海洋交通に関する活動に刺激あるいは掌握されることによって出現したことを明らかにしている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
磯間岩陰遺跡の研究成果報告書の発行は2020年度となったものの、刊行寸前までこぎ着けている。本遺跡は国史跡にして出土遺物は国指定重要文化財である。この遺跡については調査概要と『田辺市史』による報告があったが正式な報告書を欠いていた。文理融合的調査報告書が刊行されることによって、国史跡・重要文化財の基礎的データが初めて提供されることになる。このことの学術的・社会的意義は大きい。

研究成果の概要（英文）： We have researched mounded tombs and cemeteries in the Kofun period, which were located near the seashore, especially the Isoma-iwakage Site in Tnanabe City, Wakayama. It is a cemetery from the late 5th century to the 7th century. A lot of human remains and funeral goods were unearthed. Archaeological and anthropological teams anlayzed them together. We are going to publish the report in 2020.
We also researcehd other sites near the seashore and made it clear that some of them had a relationship with the Yamato Government. That is why they could make mounded tombs.

研究分野：考古学

キーワード：古墳　古人骨　海浜部　交流　骨角器

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

これまでヤマト政権の地域支配は農耕集団を基軸に研究されてきた。製塩遺跡の先駆的研究者である近藤義郎は、「各地の農耕部族がそれぞれのうちに製塩小集団をかかえ」ていたとし、ヤマト政権が各地の部族連合を介して、製塩集団を広域分業体制に組み込んだと理解する（近藤 1983）。近藤の研究は先駆的で高く評価されるが、こと地域体制に関わる記載については具体的分析に基づくものではなく、農耕社会を基盤として国家形成期を語る近藤の理論的産物であったといえよう。近藤以後、こうした課題に正面から取り組んだ研究は少ない。

研究開始当時に、海浜部にある岩陰墓や石棺墓などの在地墓制については俎上に上がることは少なく、その被葬者は、「零細な漂白民」とのイメージで語られることも多かった（かながわ考古学財団 2015）。地域社会の中での位置づけが弱い点にも問題がある。そもそも海浜部在地墓制被葬者の生業を特定することが難しいため、これまではその立地から生業が推定されていたに過ぎない。近藤がフィールドとした喜平島のように製塩土器が多量に出土する孤島でもなければ、在地墓制被葬者の生業を特定することは困難である。そのため海浜部在地墓制の被葬者に関する研究は、推測の上に推測が重ねられる状態であったといえよう。さらにヤマト政権と海浜部集団の関係についても、航路や交流路の視点での研究はあるが（近藤 1956・かながわ考古財団 2015）、広域の分布論に基づくものが多く、墓制や副葬品に基づいた研究は多くなかった。　研究代表者の清家は、それまでに太平洋沿岸の墳墓から広域交流の研究を行ってきたが、その研究を推進する中で、とくに和歌山県磯間岩陰遺跡出土遺物の調査から、畿内墓制とは関係が薄いと考えられる在地墓にも畿内的要素が含まれ、かつ威信財が多く出土するので、 海浜部にある末端の集団もヤマト政権との関わりを持つことを予測していた。また、ヤマト政権との相互関係や地域社会内での海浜部集団の位置づけには、様々な地域において共通点と相違点が同時に存在するので、広域での比較研究の必要性を強く考えるに至ったのであった。以上のことから、海浜部在地墓制の研究をより詳細にかつ広域に、そして学際的に実施する本研究を志したのであった。

２．研究の目的

本研究の目的は、海浜部在地墓制を分析することにより、海浜部における地域社会の成立とそれに対するヤマト政権の支配体制とその構造を解明することにある。古墳時代の広域権力と海浜部地域社会との相互関係の推移を探るとともに、さらにはその動向を全国的な視点で比較することで、その地域性を抽出し、ヤマト政権による地域支配の実態を解明する。 以上のような研究を行うため学際的かつ広域の研究チームを組織し、これまで農耕集団の支配を前提としてきた政権構造の見直しを目指すものである

３．研究の方法

本研究は、考古学班・人類学班・環境考古学班の３班からなる学際的研究チームによって遂行した。海浜部の墳墓は、他の墳墓に比べ人骨・動物骨の出土が多い。副葬品にも骨角器や木製品が遺存するなど考古学以外の視点から分析されるべき資料がある。そのため、複数の領域にまたがる研究者によって研究を進める必要があった。和歌山県田辺市に所在する磯間岩陰遺跡を中心に据えて研究を進めた。本遺跡は国史跡に、出土遺物は国指定重要文化財であるものの、整理と報告が不十分であった。同時に、遺存状態が良好な人骨が十数体出土し、骨角器や鉄器・土器などの豊富な副葬品を有していたため、研究の目的にすこぶる合致していたからである。

考古学班は、各地の海浜部在地墓資料を集成し、墳墓の立地・構造・副葬品の分析から海浜部在地墓被葬者集団の埋葬に関わる特徴を抽出する。また、各地域における同集団の位置づけを明らかにしつつ、ヤマト政権と海浜部集団の関係を追求する。考古学班はそれぞれ担当地域を持ち、相互に成果を持ち寄って比較検討を行った。

人類学班は、海浜部在地墓から出土した人骨の分析に当たった。清家・米田穣と連携研究者である安部みき子（大阪市立大学）と長岡朋人（聖マリアンナ医科大）が担当した。また、研究を進めるうちに人骨の DNA 分析と人骨の病歴研究を行う必要性が生じ、前者については山梨大学・安達登、後者については桜美林大学・鈴木隆雄から協力を得ることとなった。米田は炭素窒素同位体分析により、被葬者の食性解析にあたるほか、炭素 14 年代同位体法を用いて人骨の年代を明らかにした。安部・長岡は、人骨の形態的側面を担当した。

環境考古学班は、清家・安部から構成する予定であったが、安部が人類学班に専念することになったため、新たに東海大学・丸山真史と千葉県立中央博物館の黒住耐二の協力を得ることとなった。

４．研究成果

磯間岩陰遺跡から出土した資料を整理・分析した結果、海浜部在地墓制のさまざま要素が明らかになってきた。また、磯間岩陰遺跡の研究成果と他の海浜部遺跡とを比較し、海浜部在地墓制

の様々な特性が抽出された。

まず、磯間岩陰遺跡出土人骨の分析からは、縄文系の要素が強いこと、さらに古墳時代としては特殊な DNA を有していることが明らかになっている。また、虫歯など病歴も明らかになっている。炭素窒素同位体分析からは魚類の食料比率が、他の畿内古墳人に比して多いことを明らかにしてる。炭素 14 年代法では同遺跡の継続年代を明らかにしている。

後述するように、磯間岩陰遺跡は漁労具を多く副葬しており、食性と遺跡の立地からも考えて漁労に生業の多くをよっていたことが確実となった。さらに形態と DNA から縄文系の人々であり、渡来人が数多く流入する紀北とは地域差を示す可能性があり、在地の人々である可能性が高い。

その一方で、考古班からの分析では、在地性と広域性の二つの特性を備えた集団であることも判明している。本遺跡には数多くの鹿角製釣針が出土しているが、鹿角製釣針としては最古に属し、同じ形態の釣針が三浦半島で出土している。さらに鹿角製剣装具に刻まれた直弧文はヤマト政権との関わりを示している。4 号石室の棺外には須恵器が 2 列に並んだ状態で副葬されており、いわゆる「六文銭」状の副葬であり、畿内に例が多い。須恵器・土師器の棺内副葬は韓半島の習俗であることも重要だ。被葬者が渡来系習俗を導入するルートを持っていたと言うことである。ただ、埋葬施設は岩陰墓であり、墳丘を持たない。また石室と石棺は紀伊に多い小竪穴式石室（正確には石棺であるが)、棺内に敷石をもたず、紀北との関係が希薄である。在地的要素が強い埋葬施設といえよう。

人骨の形態・DNA 分析・埋葬施設からは、在地の人々の墳墓と言えるが、彼らは広域性を持ち、王権との関わりをも持っていたのである。おそらくはヤマト政権の海外政策の影響が本遺跡の集団に及び、もともと海洋を通じた広域性を持っていた彼らがより広い広域性を持つに至ったと理解できる。

ヤマト政権はその政策を進めるにあたり、必要な集団を準じその傘下に取り入れていったと推察される。その一環が磯間岩陰遺跡に代表されるような海浜部岩陰・洞窟墓が古墳時代中期中葉以降に発生していった理由であろうと考えられる。

こうした成果は研究に参加した各人がそれぞれ論文や研究発表の形で成果を公開しているほか、2020 年度には磯間岩陰遺跡の研究成果報告書が刊行される予定になっており、まとまった成果はそこで示されるはずである。

参考文献

堅田直編 1970『紀伊田辺市磯間岩陰遺跡調査概要』帝塚山大学考古学研究室
近藤義郎 1956「牛窓湾をめぐる古墳と古墳群」『私たちの考古学』10 考古学研究会
近藤義郎 1983『前方後円墳の時代』岩波書店
清家章編 2010『弥生・古墳時代における太平洋ルートの文物交流と地域間関係』高知大学人文社会科学系 かながわ考古学財団 2015『海浜型前方後円墳の時代』同成社

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計22件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 清家章	４．巻 -
２．論文標題 「四国の横穴式石室－土佐を中心に－」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『横穴式石室の研究』	６．最初と最後の頁 82-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 清家章	４．巻 150号
２．論文標題 「葬墓制と葬送儀礼を考える　古墳時代」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『季刊考古学』	６．最初と最後の頁 87-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 清家章	４．巻 -
２．論文標題 「古墳時代における王墓の巨大化と終焉－社会の変化とモニュメント－」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『日本の古墳はなぜ巨大なのか』	６．最初と最後の頁 194-214
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 杉井健（小堀嵩史らと共著）	４．巻 55
２．論文標題 第１部「平原古墳群調査報告４」のうち第２章「調査経過」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『考古学研究室報告』	６．最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 福永伸哉	4．巻 -
2．論文標題 「古代日本の古墳築造と社会関係」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『日本の古墳はなぜ巨大なのか』	6．最初と最後の頁 234-253
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takahashi, R., R. Koibuchi, F. Saeki, Y. Hagihara, M. Yoneda, N. Adachi, T. Nara	4．巻 127(1)
2．論文標題 Mitochondrial DNA analysis of the human skeletons excavated from the Shomyoji shell midden site, Kanagawa, Japan.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Anthropological Science	6．最初と最後の頁 65-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1537/ase.190307 (on line 2019/4/11)	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Tsutaya, T., K. Shimatani, M. Yoneda, M. Abe, T. Nagaoka	4．巻 170
2．論文標題 Societal perceptions and lived experience: infant feeding practices in premodern Japan.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 American Journal of Physical Anthropology	6．最初と最後の頁 484-495
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/ajpa.23939	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Tsutaya, T., M. Yoneda, M. Abe, T. Nagaoka	4．巻 127(2)
2．論文標題 Carbon, nitrogen, and sulfur stable isotopic reconstruction of human diet in a mountainous woodland village in Sendaiji in premodern Japan.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Anthropological Science	6．最初と最後の頁 131-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1537/ase.190403	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 C.Comma, P.Sotiropoulos,.A.Seike　et.al.	4．巻 30
2．論文標題 Geophysical surveys over and inside the Tobiotsuka Kofun-Okayama prefecture	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journal of Archaeological Science	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jasrep.2020.102256	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Akira SEIKE	4．巻 なし
2．論文標題 Mounded Tomb Building during the Kofun Period:Location and Landscape	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Burial Mounds in Europe and Japan Comparative and Contextual Perspectives	6．最初と最後の頁 110-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉井　健	4．巻 4
2．論文標題 集落と古墳の関係についての理論的整理	5．発行年 2019年
3．雑誌名 先史学・考古学論究	6．最初と最後の頁 201-217
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 米田穣	4．巻 143
2．論文標題 骨考古学からせまる社会の複雑化－人間行動生態学の視点－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 季刊考古学	6．最初と最後の頁 61-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 菊地芳朗	４．巻 39
２．論文標題 古墳時代の東北と北関東―福 島と栃木の比較を中心にー	５．発行年 2018年
３．雑誌名 栃木県考古学会誌	６．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 清家　章	４．巻 64巻第4号
２．論文標題 「和歌山県磯間岩陰遺跡第１号石室の副葬品」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『考古学研究』	６．最初と最後の頁 112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 清家　章	４．巻 創刊号
２．論文標題 「高知の古墳と社殿」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 『高知考古学研究』	６．最初と最後の頁 25-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 福永伸哉	４．巻 1
２．論文標題 小熊山古墳・御塔山古墳をめぐって－３～５世紀代のヤマト政権と別府湾勢力－	５．発行年 2017年
３．雑誌名 東西交流の窓　小熊山古墳・御塔山古墳－九州と瀬戸内海をつなぐ両古墳－	６．最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 遠部慎・加藤久雄・米田穣・畑山智史	4．巻 28
2．論文標題 福田貝塚の年代学的研究	5．発行年 2018年
3．雑誌名 倉敷の歴史	6．最初と最後の頁 71-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 米田穣	4．巻 709
2．論文標題 人骨の年代決定	5．発行年 2017年
3．雑誌名 考古学ジャーナル	6．最初と最後の頁 8-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉井健	4．巻 -
2．論文標題 一五〇〇年前の生活革命	5．発行年 2017年
3．雑誌名 古墳時代　美術図鑑	6．最初と最後の頁 122-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉井健	4．巻 -
2．論文標題 生活用具にみるムラの生活	5．発行年 2017年
3．雑誌名 古墳時代　美術図鑑	6．最初と最後の頁 126-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 福永伸哉	4．巻 -
2．論文標題 畿内から見た城の山古墳	5．発行年 2016年
3．雑誌名 城の山古墳発掘調査報告書	6．最初と最後の頁 489-494
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 福永伸哉	4．巻 50号
2．論文標題 ヤマト政権成立期における猪名川流域の重要性	5．発行年 2016年
3．雑誌名 待兼山論叢　史学篇	6．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計17件（うち招待講演　4件／うち国際学会　8件）

1．発表者名 米田穣・日下宗一郎・山田康弘
2．発表標題 骨の化学分析からみた食性の変化
3．学会等名 日本考古学協会2019年度大会（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 Yoneda, M., H. Ozaki, T. Omori
2．発表標題 Radiocarbon dating at The University of Tokyo.
3．学会等名 The 8th East Asia Accelerator Mass Spectrometer Symposium (Nagoya University, Nagoya, Aichi, Dec. 4).（招待講演）
4．発表年 2019年

１．発表者名 清家章
２．発表標題 古墳時代における海辺の埋葬遺跡とその意義
３．学会等名 紀伊考古学研究会第22回大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 清家章
２．発表標題 「磯間岩陰遺跡の概要と意義」
３．学会等名 第84回日本考古学協会総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 清家章
２．発表標題 古墳時代の女と男～古墳被葬者に見るジェンダー
３．学会等名 第8回山口大学考古学研究会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 清家章
２．発表標題 学際的・国際的共同研究による古代吉備研究の可能性
３．学会等名 文明動態学研究センター　キックオフ・シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 清家章
２．発表標題 「社会変化とモニュメント」
３．学会等名 歴博国際シンポジウム　日本の古墳はなぜ大きいのか－古代モニュメントの比較考古学－（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 杉井　健
２．発表標題 集落と古墳－その関係についての理論的整理と１つの事例－
３．学会等名 九州前方後円墳研究会第21回鹿児島大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 安部みき子・長岡朋人・米田穣
２．発表標題 和歌山県磯間岩陰遺跡出土人骨の形態学的・古病理学的研究
３．学会等名 日本考古学協会第84回総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 米田穣
２．発表標題 骨コラーゲンの炭素・窒素同位体比からみる古墳時代の食生活
３．学会等名 第124回日本解剖学会全国学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 菊地芳朗
２．発表標題 古墳分布北縁地域における後期大型前方後円墳の確認―福島県いわき市塚前古墳の測量調査より―
３．学会等名 日本考古学協会第84回総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Seike Akira
２．発表標題 Analysis of Internal Burial Facilities as an Approach to Social Staritification
３．学会等名 European Associatin for Asian Art Archaeology（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Akira Seike
２．発表標題 The trendo toward patrilineality during Kofun Period(3rd century to 7th century)
３．学会等名 World Arghaeology Congress 2016（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Akira Seike
２．発表標題 The changes in systems of chiefly succession during the Kofun Period
３．学会等名 World Arghaeology Congress 2016（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Akira Seike
２．発表標題 Political situations in the Korean Peninsula and the evolution of kinship systems during Kofun Period Japan
３．学会等名 Seventh Worldwide Conference of The Society for East Asian Archaeology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Shin'ya Fukunaga
２．発表標題 Mounded tomb building as a method of administration in ancient Japan
３．学会等名 World Arghaeology Congress 2016（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Shin'ya Fukunaga
２．発表標題 The Role of Foreign Prestige Goods in the Formation of the Yamato Government
３．学会等名 Seventh Worldwide Conference of The Society for East Asian Archaeology（国際学会）
４．発表年 2016年

〔図書〕　計3件

１．著者名 清家章	４．発行年 2020年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 241
３．書名 『卑弥呼と女性首長』新装版	

1．著者名 清家章	4．発行年 2018年
2．出版社 吉川弘文館	5．総ページ数 265
3．書名 『埋葬からみた古墳時代　女性・親族・王権』	

1．著者名 高田健一・別所秀高・渡邉正巳・中原計	4．発行年 2018年
2．出版社 鳥取大学地域学部	5．総ページ数 100
3．書名 直浪遺跡の研究－砂丘遺跡における人間活動と古環境変動に関する考古学的研究－	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	菊地　芳朗 (Kikuchi Yoshiro) (10375347)	福島大学・行政政策学類・教授 (11601)	
研究分担者	米田　穣 (Yoneda Minoru) (30280712)	東京大学・総合研究博物館・教授 (12601)	
研究分担者	福永　伸哉 (Fukunaga Shin'ya) (50189958)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	杉井　健 (Sugii Ken) (90263178)	熊本大学・大学院人文社会科学研究部（文）・准教授 (17401)	